

第1回理事会(臨時) 議事概要

1 開催日時 令和5年4月28日(金) 15時00分～15時45分

2 開催場所 日本青年館ホテル8階 会議室「イエロー」(東京都・新宿区)
次の役員は、自宅や職場、出張先から Web 会議システム(インターネット回線を使用した音声と映像を伝達するシステム)により参加すると同時に適時的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認した。

伊 東 秀 仁 太 田 雄 貴 栗 原 美津枝
土 肥 美智子 古 谷 利 彦 宮 本 ともみ
飯 坂 紳 治

3 出席者 理事総数 30名
出席理事 22名(代表理事を含む。)

会 長	山 下 泰 裕				
専務理事	星 野 一 朗				
常務理事	靱 井 圭 子	常務理事	尾 縣 貢		
常務理事	小 谷 実可子	常務理事	北 野 貴		
常務理事	酒 井 邦 彦				
理 事	伊 東 秀 仁	理 事	岩 淵 健 輔		
理 事	太 田 雄 貴	理 事	岡 本 友 章		
理 事	栗 原 美津枝	理 事	杉 山 文 野		
理 事	須 藤 実 和	理 事	高 橋 成 美		
理 事	田 口 亜 希	理 事	谷 本 歩 実		
理 事	土 肥 美智子	理 事	古 谷 利 彦		
理 事	松 田 丈 志	理 事	水 鳥 寿 思		
理 事	宮 本 ともみ				

監事総数 3名

出席監事 2名

監 事 有 竹 隆 佐 監 事 飯 坂 紳 治

4 議事の経過の要領及びその結果

冒頭、山下会長より以下の発言があった。本会は、令和2年8月に Vision 2064「スポーツの価値を守り、創り、伝える」を公表し、アスリートを通じて、スポーツの魅力を伝え、スポーツの価値を高められるよう取り組んでいる。その一環として2021年10月には、TEAM JAPAN ブランドを発表。令和4年6月からは、公式 YouTube チャンネル「TEAM JAPAN TV」を立ち上げ、より多くの方に身近に感じてもらえるよう、アスリートの想いや、普段見られない姿を配信している。役員の方々にもご覧いただき、より多くの方にご覧いただけるよう、ご案内いただきたい。

5 議 案

(1) 事務局規程の改訂について

- ・令和5年度よりナショナルコーチ等の本会雇用がなくなったことから、規程第21条を削除し、これにより生じた条ずれを修正した。

【決議内容】

- ・事務局規程の改訂。

(2) 令和4年度 JOC スポーツ賞について

- ・ JOC スポーツ賞は、オリンピック・ムーブメントの推進及びスポーツの各分野で優れた成果を挙げた方を対象に、その栄誉を讃えることを目的に毎年授与している。
- ・ 令和4年度は、「年度賞」、「特別貢献賞」、「女性スポーツ賞」を対象に、それぞれの選考に関する考え方を基に、アントラージュ専門部会で選考を行った。
- ・ 年度賞は「当該年度において優れた成果を挙げた個人又は団体で、本会加盟団体の選手・指導者が対象」となる。
- ・ 最優秀賞の橋本選手は、世界体操選手権大会男子個人総合での優勝に加え、ゆか、鉄棒、男子団体の4種目でのメダル獲得を評価した。
- ・ 特別栄誉賞は、最優秀賞と同等に評価される方を対象とし、複数名の選考が可能なことから、スケート/フィギュアスケートの宇野選手、坂本選手の2名を選出した。
- ・ 優秀賞は、オリンピックまたは世界選手権大会優勝者を対象とし、複数の選考が可能であり、陸上競技競歩の山西選手、スケート/フィギュアスケートペアの三浦選手、木原選手、バドミントンの山口選手、フェンシングの江村選手、サーフィンの五十嵐選手を選出した。
- ・ 新人賞は、原則18歳以下の、世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ユースオリンピック等の優勝者を対象とし、スキー/スノーボードの長谷川選手、ゴルフの馬場選手を選出した。
- ・ 特別功労賞は、オリンピックまたは世界選手権大会2、3位を含む、「日本人初」、「何年ぶり」といった競技成績以外の特筆すべき価値ある成績を収めた方とし、陸上競技の北口選手、スキー/ジャンプの小林選手、スキー/スノーボードの三木選手、自転車/BMXの中村選手を選出した。
- ・ 選考する上で、ジェンダー平等を掲げたわけではなかったが、男性8名、女性7名、夏季8競技、冬季6競技とバランスのとれた選考結果となった。
- ・ 特別貢献賞は、「本会の実施する諸事業に積極的に協力・貢献した方または団体」が対象となり、令和4年度は、ワールドベースボールクラシック(WBC)で優勝をかざった、野球日本代表チームを選出した。14年ぶり3度目という結果や、選手・スタッフの活躍が未来を担う世界中の子供たちに、勇気と感動を届け、スポーツ界の発展に大きく貢献したことを評価した。
- ・ 女性スポーツ賞は、スポーツにおける女性の地位向上や参加促進等に顕著な貢献が認められた個人または団体が対象となる。令和4年度は、6競技団体から推薦があり、選考の結果、日本サッカー協会から推薦された山下良美氏を選出した。山下氏は、2022年FIFAワールドカップで史上初の女性審判員として活躍、メディアに多く取り上げられ、サッカーへの関心や、「審判」という役割が広く認知された。また、国際審判員として多くの国際大会で審判を務め、国際貢献にも尽力、スポーツ界における女性活躍の更なる可能性を示したことを評価した。
- ・ 表彰式は、6月30日開催のオリンピックコンサートでの実施を予定。具体的な表彰方法は、コンサートプログラム等を考慮し、検討する。

【主な意見等】

- ・ 今回、女性スポーツ賞に国際審判員としてご活躍されている方が選考されたように、今後のスポーツ賞においては審判員や指導者、人材育成やチーム力向上に貢献している方々など、選手を支える側で活躍された方に対する表彰も検討してほしい。

【決議内容】

- ・ 令和4年度 JOC スポーツ賞受賞者・チーム

【年度賞】

最優秀賞：橋本大輝選手（体操）

特別栄誉賞：宇野昌磨選手（スケート/フィギュアスケート）

坂本花織選手（スケート/フィギュアスケート）

優秀賞：三浦璃来選手・木原龍一選手（スケート/フィギュアスケート）

山口茜選手（バドミントン）

- 江村美咲選手（フェンシング）
五十嵐カノア選手（サーフィン）
新人賞：長谷川帝勝選手（スキー／スノーボード）
馬場咲希選手（ゴルフ）
特別功労賞：北口榛花選手（陸上競技）
小林陵侷選手（スキー／ジャンプ）
三木つばき選手（スキー／スノーボード）
中村輪夢選手（自転車／BMX）
【特別貢献賞】 野球日本代表チーム
【女性スポーツ賞】 山下良美氏（サッカー）

6 報告事項

(1) 評議員選定委員会関係について

1月26日に開催した令和4年度第5回理事会にて、評議員選定委員会が設置され委員も選任された。その後、評議員選定委員会は2回開催され、委員の互選により選出された真下委員長のもと、6月末の定時評議員会終結時迄の任期がある評議員のうち、任期満了前に退任した評議員の補欠としての評議員12名が選任された。任期は選任日の4月14日から6月29日の定時評議員会の終結の時までとなる。これにより定時評議員会出席評議員は58名となった。なお、定時評議員会終結後からの任期となる評議員61名も選任され、次期評議員は、来年度の定時評議員会終結時迄任期のある2名を併せて63名となる。この次期評議員は、定時評議員会で選任される役員候補者と合わせ、6月の理事会で報告する。

(2) 令和5年度補助金・助成金の交付決定について

例年、国やJSC、JKA、ミズノスポーツ振興財団、日本馬主協会連合会等、多くの団体から補助金・助成金の交付を受けている。その中で、公益財団法人JKAより、オリンピック教室、オリンピックコンサート、JOC公式サイト運営・広報誌制作のオリンピック・ムーブメント推進事業に対し、39,637,000円の補助金の交付決定をいただいた。この補助金を活用し事業を実施する。

(3) 第19回アジア競技大会（杭州）団長会議概要報告について

本大会の各国・地域団長会議が4月25日から27日まで、中国・杭州にて開催された。アジアオリンピック評議会加盟45NOCのうち、本会を含む43NOCが参加。大会組織委員会の各セッションからの進捗状況説明、各NOCとの個別折衝、選手村や主な競技会場などの見学も行われた。組織委員会からは、本大会は行動制限のない、従来の大会運営とすることが発表された。

(4) 選手強化本部関係について

1) 令和5年度オリンピック強化指定選手・ネクスト強化指定選手・強化スタッフの認定について（4月1日付）

夏季競技は、オリンピック強化指定選手1,292名、オリンピックネクスト強化指定選手305名、強化スタッフ2,279名。冬季競技は、オリンピック強化指定選手361名、オリンピックネクスト強化指定選手105名、強化スタッフ373名。非オリンピック競技は、強化スタッフのみで579名。合計オリンピック強化指定選手は1,653名、オリンピックネクスト強化指定選手は410名、強化スタッフは3,231名となった。

2) 令和5年度コーチ等設置事業・コーチ等一覧について

令和5年4月1日付で委嘱したコーチ等は、各競技の責任者となるハイパフォーマンスディレクター等が39名、競技団体からの要望等もあり、新たに設置したハイパフォーマンスディレクターをサポートするハイパフォーマンスアシスタントディレクターが16名、ナショナルヘッドコーチ53名など合計395名を設置した。

3)令和5年度JOCナショナルコーチアカデミー受講予定者一覧

令和5年度は、正規コースには59名、外国籍コーチ向けコースには8名を受講者として決定し、実施する。

(5) 第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)大会進捗状況について

本大会は、パリ2024オリンピックの32競技を基本として、アジア5地域からそれぞれ1競技の5競技、組織委員会提案が2競技、OCA提案の2競技の合計41競技を開催することが開催都市契約で決められている。

組織委員会では、提案競技の選定に向けて、国内競技団体を対象に実施競技の提案募集を行うこととし、4月25日に記者発表を行った。4月25日から5月19日までOCAに加盟又は準加盟している競技団体からの提案を受け付ける。6月上旬に、評価委員会において、非公開で評価を行う。6月中旬の組織委員会の理事会に競技案を提案して議決を得る予定。7月7日にOCA理事会、8日にOCA総会が開催され、41競技が最終決定する予定。

【主な意見等】

- ・東京2020大会の際には様々な形でアスリートの声を大会運営に取り入れていたが、どのようにアスリートの声を吸い上げていくのか。
⇒組織委員会にはまだ各種委員会の設定がなく、今後様々なことを進めるうえで検討していく。共生社会を見据え、アスリートの声が大会運営に反映されるように今ある課題を解決していきたい。
- ・追加競技の評価のポイントについて、昨今、JSPO等ではアスリートファーストではなく、アスリートセンタードであることを強調している。我々もアスリートを取り巻く指導者として一体となって、競技力向上に取り組んでいるという話をしている。コンセプトのアスリートファーストには、アスリートセンタードという視点もあるのか。
⇒組織委員会としてはアスリートファーストという文言で理事会承認されており、現段階ではこの言葉を使わざるを得ない。ご意見を組織委員会に持ち帰りたい。
- ・東京2020大会の反省として、参加者のジェンダーは整ったが、組織委員会職員のジェンダーは後からでは変えられず平等にならなかった。これから増員し、組織として運営していくことから、組織の中や各会場の担当者など早めにジェンダー平等の視点を取り入れていただきたい。
⇒現在、愛知県、名古屋市及び競技を開催する都市の自治体から主に出向いただき、現在女性職員は2割強程度になっている。この視点はJOC理事会で挙げた意見として、組織委員会に持ち帰る。杭州アジア大会組織委員会について中国も女性の活躍推進ということでジェンダーバランスをとっていた。OCAアスリート委員会からも組織委員会にプッシュしてほしい。
- ・オリンピックではトランスジェンダー選手の出場条件がIOCにより規定されているが、アジア大会はどうか。
⇒アジア大会については、IOCのフレームワークに基づき、現在AFとOCAとで協議中と聞いている。

(6)その他

- ・次回理事会は6月13日(火)15時から、定時評議員会は6月29日(木)14時30分から、第3回理事会は同6月29日(木)16時からいずれもJapan Sport Olympic Square 14階「岸清一メモリアルルーム」及びWeb会議で開催する。なお、現在の役員体制は定時評議員会までとなり、第3回理事会は新しく選任された役員により開催すると報告。

以上